

藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会

第9回 藤沢駅南北まちづくり市民検討部会《概要版》

日時：2011年10月3日(月)午前9時30分～

場所：藤沢市役所 新館4階会議室

1. 開 会
2. 部会長挨拶
3. 議 事
 - ・にぎわい・交流のまちづくりについて
4. そ の 他
5. 閉 会

3. 議事概要

第9回配付資料について

- 部会長 : Bの所に追加した部分だが、市庁舎に来る人たちによる経済効果だけではなく、市庁舎があることにより関連する諸活動を誘発することを追記した方がよい。Dのガバナンスを「(共治)」と記すのはちょっと怪しい気もする。
- A 委員 : Dの「新たな市庁舎像の観点から」で、これからの市庁舎は色々な機能があるというのは良いが、藤沢都心部との関連が示しにくい。
- 部会長 : 要するに、「市民への直接的なサービスは分散をするが、一方で、意思決定という行政のヘッドクォーター部分に市民が直接的にかかわり受け持つようにするために、市役所は本来もっと機能しなければいけない。それを実現するには、市庁舎が都心から離れたところへいってはいけない。」ということ言葉をうまくまとめて欲しい。

第8回資料に関する検討の続き

- 部会長 : 駅に関する要望はここでまとめた後、どういう使い方をするのか。
- 事務局 : 市民部会のご意見を駅改良部会に伝えていく。
- 部会長 : このままの資料だと中途半端な感じがするので、委員の要望なりイメージを踏まえて、

これらの概念を具体化するとこういうことになる、というまとめ方をしたい。具体案として資料の右側のアンケート回答を示すことも考えられるが、これではどのようなココロがあるのかわからない。

B 委員 : 市内の店舗が商売できるスペースがほしいとか、駅ナカが充実すると地元が商売しにくいなど、最低限駅に欲しい機能を具体的に示さないとこちらの考えが反映されない。

部会長 : 意見交換する時間はあり、とりあえず今は抽象的な形で議論はした、この後段階的に具体化した議論の結果を伝えていくことで間に合う、ということでしょうか。

C 委員 : まちづくりの側から駅の役割や駅広の役割を見て、要望を出していくのが大事であるため、委員のコメントにある思いをわかりやすく整理した方がよい。駅改良検討の議論の段階にあわせて、こちら側からも要望を出していくことがよいのではないかと。

部会長 : アンケート結果をまとめた項目をみると大きな柱と具体的な措置とが同一レベルで出ている。個人的な知見で言うと、藤沢駅は機能はあるけれど顔になっておらず、象徴性、顔をきちんと作ってほしい。もうひとつは、ラチ外となるが南北をつなぐ役割をしっかりと果たして欲しい。そういう基本的な柱とそれを具体化するための方法くらいをここで書けるのではないかと。

C 委員 : 駅とまちのインターフェイスの部分はすごく大事であるが、鉄道事業者は我々の扱う範疇ではないという言い方をしている部分が結構ある。駅広の扱いも駅舎・駅広・まち、という関係、機能的なつながりを含めてそこが大事であり、駅舎が新しくなってもそこがうまくまちとリンクしてこないといけない。駅の持っている力をどう周辺に波及させていくか、という意味で駅広というのは非常に大事な役割を持っていると思う。

部会長 : インターフェイスはこちらの責任分野でもある。駅とまちとのつながり方がもちろんメインで、その中のひとつとして、特に南北の分断解消を柱としたいということである。

事務局 : 駅広は行政の守備範囲で、鉄道事業者、駅周辺の事業者などが有機的につながるためにも、この市民部会のご意見をまとめていきたい。

D 委員 : 北口についてはタクシープールが広く自動車は駅に近づきにくく、南北をつなぐ道路がR467と戸塚茅ヶ崎線しかないため、駅周辺でも南北の流れがほしい。

部会長 : 便利だけどなかなか悩ましい。車でとても便利だと歩く人にとっては不便なまちになる可能性もあり、高齢の方や体の不自由な方など本当に車でないとアクセスできない人と、一般の人という風に分けて考えてないと、多分問題は解決しないのではないかと。

E 委員 : 駅の持つ機能など言葉としてはカバーできていると思うが、具体的に描けないのか。

賑わい創出には商店街、市役所など様々に役割があるが、駅舎の問題が一番上にあり、そこからまちの中に広がっていくと考えているが、その辺の強弱がこの資料では出てきていない。交通事業者の都合だけの議論で進めることなく、まちとの接点を保ちながら議論してもらわないと一抹の不安があり、しっかりルール化して欲しい。

部会長 : 全体の会議もそうっており、しっかりどこかに書いておいてほしい。デッキとか自由通路は、どこがやるのか。

事務局 : 公衆用が目的ですから、基本的に行政が主体的にやっていく話だと思う。

部会長 : では、ここで書いてあることの半分近くは、行政がやることかもしれない。

E 委員 : 駅ナカを作る場合には、今の自由通路から大船側の線路上になるのか。

事務局 : 現段階ではその検討はまだしていない。

E 委員 : そのようなことも想定しないと、まちと駅とがうまく連携ができないのではないかと。

A 委員 : 駅舎は JR、小田急、江ノ電が真剣にやり、そこから一步出たデッキ、広場については行政が中心でなければならない。その先は民間と行政が、という話になるだろう。今回投げかける相手がそれぞれ違うという意味では、まとめて提言する形をとったほうがいいのではないかと。広場にしても JR 用地、小田急用地があり、行政は大変だと思うが、主導権は持たないといけない。

事務局 : 鉄道だけではなく、他の交通機関の利便性もきちんと織り込みながらやって行きたい。

C 委員 : メインは鉄道間の乗り換えだと思うが、他の公共交通機関との乗り換え、さらに自転車など、総合的に駅周辺の交通をどう扱うかを考えていかなければいけない。自由通路では単に移動する空間だけではなく、広場的な、環境空間としての役割が求められてくるなど、同時に交通機能だけではない機能についても新たに考えなくてはならない。

部会長 : 親委員会に出していくのであれば、アンケート結果を資料として出して行く。その上で、市民部会として、駅及び駅広・デッキのあり方に関しては以下の点が基本的に重要と考える、ということ、を、鉄道事業者、行政等と書き分けず全部を相手にしたペーパーをまとめてほしい。時間的な余裕次第では、委員長等とのやり取りでまとめていきたい。

A 委員 : 今の項目から、もう少しコンパクトに、せめて4つくらいにしないと、つかみづらい。

部会長 : 目的と手段、という整理になるだろう。

事務局 : アンケート回答は手段に近いものが多いので、まず、駅に対してまちとのつながりを一体的に持つことを要請として出し、具体的な手法については段階的に要望していきたい。部会の中で出されたお話をメインに大きくまとめた上で、個別の事柄を具体的に示すま

とめ方にしたい。

- ・意見にあった駅ナカは、ラチから出て駅の上部空間等を使った商業施設をイメージしていたと思うが、鉄道事業者は「駅ナカ」という表現は基本的にラチ内という受け止め方をする。駅ナカ施設は、鉄道事業者は旅客サービスとしてやっているものを指しており、駅舎の中でも、改札を出た部分で商業・サービスは、駅ソトという扱いになる。駅ナカという言葉を使うとラチ内と受け取られる危険性もあり、表現の取り扱いを注意していきたい。

C 委員 : 13 ページの遊行通りに私が発言した「まちづくりプロデューサー」とあるが、まちづくりをテーマ性を持って考えていく必要があるということで、外部から特別な人を招致してイベントをやるということではないので、少しニュアンス表現を変えて欲しい。

- ・街のプロデュースという感覚は、ブランディングを考えるとときに大事な発想であり、多分、将来的にはエリアマネジメント組織の仕事の一つになってくるかも知れない。

部会長 : この表で、オープンカフェやマルシェはプロジェクトとしてイメージできるが、一般的な表現にとどまってイメージしにくいものもある。プロジェクト的に説明できると良い。

F 委員 : この表の中の空白の部分を埋めていくなれば、南側の二つにもオープンカフェを入れて、地域全体を挙げてオープンカフェに取り組むという形が良いのではないのか。

C 委員 : テーマとして自転車があり、大きな駐輪スペースの確保のほかに、街中の移動手段や、ライフスタイルにつながるような意味で、オープンカフェやマルシェの近くに駐輪スペースなどを設置するなど、自転車をイメージづくりの道具にも使える。

- ・民間事業者に期待することが色々あると思うが、それを誘導・要請していくツール、ルーリ的なものをこれからの時代、まちづくりの方向を見据えた検討が必要である。

部会長 : まちの方々だけでやるという領域もあるし、条例や景観法等、行政がしっかりしたルールとして定めるというものもある。マンションが増えている中で、通りとマンションの関係について、これからのあり方を方向付けするルール作りは大事であり、ある程度方向付けした方が良いのではないのか。

C 委員 : 商店街を100%商業施設だけで埋めるのはなかなか大変であり、広い意味での生活支援機能をどう導入するか。ビジネスとして成立ものの誘導や行政支援等があるが、広い意味でまちが生活を支援するという機能が商業機能とともにあることで人がまちに来る。その辺も見据えて銀座通り等を考えてもよいのではないのか。

E 委員 : 全通りに共通事項として書いてしまって良いのではないのか。

- 部会長 : 共通事項ではあるが通りごとの特徴として、重点的にやる等色合いを出してもよい。
- B 委員 : 高齢者が住みやすい、住宅と簡単な医療とが融合した形の集合住宅を出していきたい。
- G 委員 : 昨年度策定した産業振興基本計画では、商店街のあり方として、商業機能だけではなく「生活街」という言葉を使っているが、先ほどの話と同様の方向性を打ち出している。
- 部会長 : これからはまさにそういう面が強くなるだろう。通りや地区を強化する上で、行政として道路整備等のハード面もやっていく話はないのか。
- 事務局 : 南口は30年ほど前に駅南部改造計画で整備しており、一体的というよりは既存建築物の建て替えに合わせてという形を考えている。歩行者空間の確保という意味では、北口駅前地区では電線地中化はやっていきたい。
- ・関連して 北口通りエリアは歩道幅員が3mで街路樹植栽の余地がないため、「街路樹などの整備による」を「沿道緑化による」という表記に資料を改めたい。
- B 委員 : 北口エリアにバリアフリーみたいな表現を入れたらどうか。
- 事務局 : 鵜沼奥田線が都市計画決定されておりますが、自転車通行帯が計画上ない。現在自転車環境の整備について市内部で検討をしており、結論が出次第、反映をさせたい。
- A 委員 : 銀座通りなどは歩行者と自転車の分離をする必要がある。
- C 委員 : 橋通りはもう少し道路修景を公共施設の側でもした方がよい。あそこのスケール感は歩行者にとってとても良く、もう少し今の雰囲気強調したらどうか。
- B 委員 : 年配者等に優しいまちづくりをしていかなければならない。藤沢らしいという表現の中に、人に優しいまちづくりを含め、トイレやおやすみ処の情報を南北で出したらどうか。
- 部会長 : 横断的なテーマと部分的には重点的に取り組むテーマが出てきたが、並行して、通りの目指すテーマがあると面白いが何かないか。
- F 委員 : 市民まつりでスパリゾートハワイアンフラガールに来ていただいて南北で踊りを披露していただいたが、観客が多すぎ会場運営に苦慮した。南ではフジサワ名店ビルの中庭広場、駐輪場の上にステージを組み、北ではサンパール広場の藤棚ステージでやったがどちらも超満員の状況で、イベント開催の場所には手狭で乏しいという実感である。
- 部会長 : 今日出た意見を踏まえて、最後の2ページあたりをブラッシュアップして欲しい。ほかにご発言はないか。
- A 委員 : 最後の「街づくりの動きのありそうなエリアや場所」は、どこのことを指しているかわからない。これから実際に動く、という意味合いであれば、まず、壊れた市役所ではないか。これだと、あまりに漠然としていてわからない。

- 事務局 : ここで記載した意図としては、商業的なにぎわい・交流に関連したエリアで土地利用更新などが見えており、プロジェクトの一つとして取り上げられる可能性のあるところで示したかったが、解りづらく示し方を考えたい。
- 部会長 : この通りとエリアのプロジェクト(アクションプラン)を挙げた中で、そのあと具体的にどこから手を付けていくか、というときにこの が絡んでくる、という構成なのか。
- 事務局 : そのように繋げていこうとする意図だったが、工夫したい。
- 部会長 : 「商業活性化支援」というのは具体的にはどんなことがあるか。
- G 委員 : 商店街自身に体力がなくなっており、かつてのモール化事業のような大きな事業ができないという実態がある。イベントなども単発になる傾向で、自分たちで意向があっても、具体的には厳しい状況である。メリハリを付けた誘導、支援という方向性が必要かもしれない。今の商業振興の考え方から行くと、遊行通りは音楽関係の動きもあり、遊行寺へつながる通りということで力を入れていくべきかと考えている。
- 部会長 : 遊行通りは音楽をテーマにしたてこ入れができるのか。
- D 委員 : 商店街に新たにできる新堀学院のライブ館の完成記念のパレードを商店街としてやることになった。新堀音楽院やレディオ湘南とタイアップしながらまち興しの材料にしたい。
- 部会長 : 「商店街活性化」はこのままだと普通のことに見えてしまうので、何か新しいチャレンジをする、というニュアンスで書くとプロジェクトになる気がする。
- B 委員 : 銀座通りの商業活性化で、空き店舗にならずに自宅として非商業化することへの対策をやって欲しい。また、商店街の中での業種ミックスに対するコントロールができると、まちづくりに役立つのではないか。
- D 委員 : うちの商店街でも2軒空き店舗があり、交渉しても貸さないということで困っているが、後継者がいない人は自分の代でおしまいということで積極性は見られず、また個人の心の問題なので、非常に難しい。
- C 委員 : 通りのテーマ性を持って、それとのマッチングを図ることで商店街の特徴を出していけると良い。
- G 委員 : 空き店舗については、活用できる空き店舗なのか、単なる住居になっているのか解りづらく、まず、今後の調査をしていきたい。
- 部会長 : 今日はここまでとする。

以 上